

第2回 COE国際シンポジウム
「図像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く」

プログラムスケジュール

第1日目 10月28日(土)

開会挨拶 山火 正則(神奈川大学長)
主催者挨拶 福田 アジオ(神奈川大学教授・COE拠点リーダー)

セッション

「非文字資料をめぐる方法論的諸問題」

- <コーディネーター>
・的場 昭弘(神奈川大学教授・COE事業推進担当者)
- <パネリスト>
・リュ アラン=マルク(フランス、リヨン第3大学教授)
「デジタル人類学 パーチャル博物館としてのインターネット」
・的場 昭弘
「非文字資料はいかに認識されるか 知覚をめぐる哲学的諸問題」
- <コメンテーター・司会>
・橋川 俊忠(神奈川大学教授・COE事業推進担当者)

セッション 前半

「図像のなかの暮らしと文化 日本と東アジアの近世」

- <コーディネーター> 金 貞我(神奈川大学COE教員)
- <パネリスト>
・福田 アジオ
「生活絵引編纂の世界的意義」
・田島 佳也(神奈川大学教授・COE事業推進担当者)
「『日本近世生活絵引』作成に向けての試み
土屋又三郎「農業図絵」を題材にして」
・王 正 華(台湾、中央研究院近代史研究所助研究員)
「17・18世紀中国における都市図、都市文化と風俗画の興隆」
・金 貞我
「韓国・朝鮮編の生活絵引編纂と図像資料
「平壤監司饗宴図」を例にして」
- <司会> 西 和夫(神奈川大学教授・COE事業推進担当者)

セッション 後半

- <コメンテーター>
・モストー ジョシュア(カナダ、プリティッシュコロンビア大学教授)
・トレーデ メラニー(ドイツ、ハイデルベルグ大学教授)



会場風景

第2日目 10月29日(日)

セッション

「犁の形態比較から東アジアの民族移動に迫る」

- <コーディネーター・司会>
・河野 通明(神奈川大学教授・COE事業推進担当者)
- <パネリスト>
・渡部 武(東海大学教授)
「中国の伝統犁とその技術移転」
・金 光彦(韓国、仁荷大学校名誉教授)
「韓国の犁の形態と地域的特徴」
・河野 通明
「日本の犁に見られる朝鮮系・中国系とその混血型」
- <コメンテーター>
・尹 紹 亭(中国、雲南大学教授)

セッション

「景観・空間編成分析における資料としての写真の可能性」

- <コーディネーター・司会>
・八久保 厚志(神奈川大学助教授・COE共同研究員)
- <パネリスト>
・藤永 豪(佐賀大学講師・2003~2005年度神奈川大学COE研究員(PD))
「景観分析における資料としての写真の可能性」
・浜田 弘明(桜美林大学助教授・神奈川大学COE教員)
「景観研究資料としての『洗濯フィルム』の今日的意義
韓国南部を例に」
- <コメンテーター>
・鄭 美愛(平成国際大学非常勤講師)
・奥野 志偉(神戸流通科学大学教授)

総合討論

- <司会>
・北原 糸子(神奈川大学非常勤講師・COE事業推進担当者)
- <パネリスト>
・的場 昭弘 ・金 貞我 ・河野 通明 ・八久保 厚志

*前号でスケジュールをご紹介しましたが、当日実施したものに若干の変更がありました。改めて最終版をご紹介します。



総合討論



シンポジウム初日終了後に開催された、関係者によるレセプション